
小説1

小早川

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小説1

【コード】

N09480

【作者名】

小早川

【あらすじ】

短いお話を一つ。お楽しみください。

佐藤伊織とバイト先が同じであることを知ったのは、働き始めて3ヶ月も経った頃だった。同じといってもテナント店が密集する駅ビル内のことだから、当然と言えばそうだが、それより佐藤伊織自身を見つけることが難しいからだと思う。佐藤伊織の特異な趣味は、彼を彼と認識することが難しい反面、絶対に彼だと断定できる要素でもあった。

佐藤伊織は同じクラスだが、大抵派手な雰囲気の子に囲まれていた彼と私の接点は皆無で、ほとんど話したことはない。彼の人気はクラス内にとどまらず、学年さえも超えた。確かに佐藤は容姿に恵まれている。とはいうものの浮ついた噂での人気ではなく、彼の華麗にして突飛な、常識を超える、要するに女装の趣味のせいだった。

彼の女装は完璧だ。知らなければななときれいな女性であるかと疑いもしないだろう。しかし社員食堂で「きれいな男の子が女装して服を売っている」という噂話を耳にしてから、すれ違う彼の人が佐藤伊織だと知った。女子の多くが彼から、新作のマスカラやマニキュア、流行のスカートまで目を輝かせながら情報収集したがる理由が分かった。彼を雇ったお店も冒険だったろうが、先見の明だ。売り上げは右肩上がりらしい。

9月のある日曜日、私はダンボールの山と格闘していた。

私は鮮魚売り場担当なのだが、この体格を買われて婦人服のセールの品の移動を命じられた。人間見た目で判断しちやいかんと思うのだが、仕方が無い。それにしても洋服は詰め込まれるとこれほど重いのか。どうにもならないので、何か道具になるものを探している。後ろからどすんという音がして振り向いた。そこには、黒い長

めのニットにミニスカートをはいて、まだ暑かろうがタイトにブーツの佐藤伊織が、巻き髪を肩で揺らしながら軽々とダンボールを移動させていた。うっかり呆然としてみると「鈴木さんが、そっちを持ってくれたらうれしいんだけど」と、ダンボールの端を指差した。あわてて私もダンボールを持ち、いとも簡単に全てを台車に積むことが出来た。なんとなく気まづくなつた私は、「冗談交じりに言った。

「こんなに手足が太いのにさー、全然力なくてさー。見掛け倒しだよねーあはは」

笑つてこの場を和ませようとしたが佐藤伊織は笑わない。

「鈴木さん、女の子なんだから力無くって当然でしょ」
至極真面目な顔をしてそう言った。

それから、佐藤伊織の顔をまともに見ることが出来なくなつて困る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0948o/>

小説1

2010年10月20日18時43分発行